

【最優秀賞】（北海道知事賞）

タイトル：良いところカード

生徒氏名：若山叶歩

私の周りでは、テレビで見るような深刻な「イジメ」は起こっていない。そう信じている。

それは、良い事と悪い事の考え方が似ている人達が集まっているからだと思う。

親や先生や友達みんなが、「人を大切にしよう」という思いで育て、支え、守っているからだと思う。なので私が今、この環境に居られるのをとても感謝している。

私が小学校四年生の時、担任の先生が『良いところカード』というのを作ってくれた。それは、クラス全員がみんなの良いところをそれぞれ書き合うのだ。なので、私のところにもクラス全員が私の『良いところ』を書いてくれたカードがある。そして、私もクラス全員の『良いところ』を書いた。直ぐに『良いところ』ばかり浮かぶ友達もいたが、あまり話したり、接していない友達の『良いところ』を書くのは、難しかった。しかし、その人のことを考える機会になり、大変良い授業だと思った。

そのカードには、私が一生懸命取り組んでいるピアノの事を褒めてくれる内容がほとんどだったが、中には「優しいところ」や「字がきれいなところ」など、自分では「えっ？」と思うような事も書いてあり、ビックリした。でも、「人から褒められるってこんなに嬉しいことなんだ。」と改めて思った。

女子同士ではよく褒め合うことはあるが、男子に褒められるとなんだか照れくさい。いつも「うるせえ。」とか言ってくる男子に褒められると意外と嬉しい気持ちになる。いつも嫌な事ばかりしてきて、大嫌いな男子のことも、少しは好きになったりもした。「人を褒める」って凄い力だと思った。

人の長所と短所を同時に考える事はあるが、この『良いところカード』には、良いところだけしか書いていない。長所の後に短所が書かれていると気持ちの中のプラスマイナスが、ゼロになってしまうからだ。

相手の良いところだけを考えて、本当にその人に認めてもらえたようで、嬉しい気持ちだけが残るから。

中学校でも、国語の授業で隣の人の良いところを書き合った。私の隣は幼稚園から一緒の男子だったので、私の家族の事まで褒めてくれて、とても嬉しかった。私もその男子が優しいこと、サッカーが上手な事、かわい

い弟がいる事を書いた。

きっとこの授業が無ければ、この気持ちを相手に伝える事は出来ないと思うのでとても良い機会になった。

人に優しくされたり、褒められると、認められたような気持ちになり、私も優しくしてあげたくなる。こんな風にみんなが優しい気持ちを持って接していれば、「イジメ」なんかは起こることはない。

しかし、普段人を心から褒める事って本当はとても難しい事だと思う。相手の良い所だけを褒めることは、自分にも余裕がないと出来ない事だと最近気付いた。少しでも嫌な事をされると、相手の嫌なところばかり気になってしまう。そこでお互いが、その嫌なことについて言い合うとケンカになってしまう。そして、誰かにその気持ちを分かってもらいたくて、その人の悪口を言うと一対一のケンカから一対数人になってしまうと、「イジメ」に発展していくのかも知れない。

人の陰口は一方向的に言える。言われている人は弁解する事が出来ないから不公平だ。そして、相手の心をどんどん傷つけてしまう。

この悪循環をどこかで止めなくてはいけない。そのためには、「でもあの人にはこんな良いところもあるよ。」と言って止めてあげられる人になりたい。それは、簡単なようでとても難しく、勇気のいる事だ。

しかし、どこかで誰かが止めないと、「イジメ」はどんどんエスカレートしていつてしまう。

どうしても仲間がいると、気が大きくなってしまう経験は私にもある。あまり良い気持ちではない。それよりも、人の良いところを見つけて褒めてあげられる自分の方が好きだ。

これからも、人の悪いところを探すことはせず、人の良いところを見ていけるよう、自分自身にも余裕のある人間でいたいと思う。

そして人を認め、大切に作る心が、クラス、学校、社会全体に広がっていけば深刻な「イジメ」はなくなっていくのではないかと私は思う。